

# 冷静沈着な空手少年 勝利に向かって 突き進め！

撮影＝舛元清香 文＝大濱たえ子

「りや——!!」

鋭い眼光で一点を見つめ、左の拳を突き出す姿がなんとも勇ましい。昨年8月、全日本少年少女空手道選手権大会（全少）男子組手4年生の部で優勝を果たした三浦拓己。11歳の空手少年は大会2連覇を成し遂げるべく、この日も汗を流していた。

空手の四大流派すべての選手が集う全少は、全国の空手少年が目指す一番の大舞台。各都道府県予選の上位2名とシード選手だけが出席できる。三浦は初出場した3年生で3位、昨年は頂点を極めた。

「優勝した時、ほっとしたような表情をしていたんです。拓己のあんな顔ははじめて見ました」

父親の崇さんはそう振り返る。勝っても決してはしゃがず、負けても泣かない。三浦について尋ねると、周囲からはそろって「冷静沈着」という言葉が返ってきた。

稽古は週4日、夜9時まで。三浦は時間を見つければ、動画サイトで同世代の大会から大学生、社会人、海外の大会までさまざまな動画を探し、チェックしている。稽古後、自宅で突きを反復したり、崇さん相手に自主練習をすることもあるという。

「拓己はここにいる誰よりも、一番空手が好きだと思います」

それは三浦の空手を見れば一目瞭然だった。小さな声で話していた三浦が、稽古中は体育館に響き渡る威勢のいい大声を出し、その目は輝いていた。

「東京五輪はまだ中学生だから出られないけど、その次の五輪でも空手があったら、出場して優勝したい」

言葉少な中でもはっきりそう語る三浦は、少年ながらどこまでも武道家だった。

**PROFILE** 三浦拓己（みうら・たくみ）／  
2006年4月18日生まれ。神奈川県出身。  
151cm・33kg。好きな食べ物はハンバーグ。  
空手をやっていて楽しいのは「泊まりがけで  
大会に行って、友だちと会える時」だという。

横浜北松濤館

# 三浦拓己

